

ふるさと豊間だより

第2号

2012年10月15日

発行：豊間区・ふるさと豊間復興協議会

堤防高さ等決定

九月二十日(木)夕、豊間公民館において、県と市から当協議会に対して、豊間の震災復興事業の都市計画決定案件の説明会が開催されました。その案件と内容は次のとおりです。

① 海岸堤防・河川

- ・沿岸部の堤防の高さは、海拔七・二mとする。
 - ・諏訪川の河口から上流分岐点までの四百mの両岸に堤防を構築する(図示②)。
 - ・合磯の通称「サンペイ川」の河口の堤防は現在ラッパ型になっているが、堤防位置を五十m突き出して、なめらかな法線に改良する。(図示④)
- ※堤防等の工事は、二五年度着工、二七年度完了予定。

② 防災緑地

津波のエネルギー減殺及び海からの漂流物を捕捉するため、海岸堤防の背後に幅五十

mを基本とする防災緑地を構築する。諏訪川まで巻き込む。高さは海拔十・二m。

③ 県道豊間四倉線

県道豊間四倉線の兔渡路地内のルートは、宅地の間を通す計画であったが、海側に振って防災緑地のすぐ背後にルート変更する。(図示③)

④ 市道塩屋町榎町線

・八幡神社側の高台幹線道「塩屋町榎町線」に並行して北側に道路と水路を建設する。調整池については検討中。(図示①)

⑤ 防災公園

・八幡神社側の高台に津波防災公園を設置する。面積は八・二ヘクタール。二七年度完成を目指す。

計画案の縦覧

- ・場所 いわき市都市建設部都市計画課
 - ・期間 平成二四年一〇月一九日(金)から一一月二日(金)まで(土曜日・日曜日を除く)
- いわき市内に居住する住民及び利害関係人は、次の縦覧期間内に住所、氏名、及び意見を記した意見書を提出できます。

計画案



従前案



災害公営住宅の住まい方と復興後の生活と産業を、住民主体でみんなで考える

みんなが思っている疑問や希望について、互いに意見を出し合って、一緒に解決策や提案を考えてみるために、専門家を交えた「ワークショップ」(話し合い)形式で行っています。

話し合いを支援してくれる専門家の方々

◆東京・豊間支援グループ

高見澤邦郎(東京都立大学名誉教授)、山本忠(日本不動産研究所顧問)、
佐藤俊一(NPO美しい街住まい倶楽部理事長)、古里実(埼玉県住宅供給公社役員)、
加藤仁美(東海大学教授)、松本暢子(大妻女子大学教授)、連健夫(建築事務所代表)、
重永真理子(世田谷区職員)、藤井祥子(都市計画コンサル)、薬袋奈美子(日本女子大学準教授)、
小川美由紀(八王子市都市政策研究所)、大桃一浩(大桃建設工業社長)

◆建築士会いわき支部青年・女性委員会メンバー

大森仁、浦木祐作、鈴木友和、佐藤透修、仲井健、神田まゆみ、岡田かおり

災害公営住宅の住まい方について — 報告 —

第1回「子を持つ親が話し合って考える」 9月1日(土) 豊間公民館



◆住民の参加者 6名

◆主な意見 <<共用スペースが重要>>

- ・単なる集会所でなく、コミュニティカフェ、診療機能、子育て支援スペースも必要。
- ・祭りは重要で、御神輿の通れる幅員確保とルートが必要。
- ・豊間には公園がなく自転車の練習をできるような場所がほしい。
- ・子供と高齢者が自然に触れ合える場所が必要。
- ・駐車場に芝生を植えて、車のいないときは遊び場にできるようにする。

第2回「高齢者への心配りを考える」 9月2日(日) 豊間公民館

◆住民の参加者 34名

◆主な意見 <<ルールづくり>> <<共用スペース>> <<照明や手すり>>

- ・震災前の隣近所が近くに住めるように、高齢者は1階に住めるようにする。
- ・上下階や隣の騒音への配慮、ペットの飼い方、駐車場の利用のルールが必要。
- ・集会所は気軽に入れて、子供たちと遊べるように。
- ・デイケア付き診療所、移動図書館、店舗、郵便局もあってほしい。
- ・祭り、体操やおしゃべりのできるスペース、花壇や家庭菜園が欲しい。
- ・エレベーター、階段や廊下の手すり、街灯や建物の照明をつけて欲しい。



第3回「木造の災害公営住宅をを考える」 10月7日(日) 豊間公民館



◆住民の参加者 27名

◆主な意見 ◎戸建希望理由 <<広さ>><<階段の昇降が無い>><<上下階の物音>>

- ・木造戸建ての数は、建設予定190戸中、20戸程度と見込まれ、希望数より圧倒的に少ないので、どのような人が入ったら良いか基準が必要。
- ・広さは思っているよりも随分と小さい(集合住宅と変わらない大きさ)なので、エレベーターや菜園など充実していれば集合住宅も検討する。
- ・区画整理の換地ができるまでの間だけの入居を考えている者が多く、その移転後空室にならないようにする工夫が必要。

第1回 「豊間のこれからを考える」（諏訪川北部を中心に） 9月15日（土）豊間公民館

◆住民の参加者 45名（男33、女12）

◆主な意見 《絆を戻す》 《若い人、子供を戻す》 《豊間の良さの再生》

- ・昔は漁業の町で、留守を預かる女性の絆が強い。絆を強めるための神社、お祭り、行事を中心にコミュニティを戻すことが大事。
- ・若い人を戻すには産業が必要で、観光や漁業の再生を図ることが必要。
- ・豊間の良さ、魅力を活かしてテーマパークのようなまちづくりを進めるとは、健康の街、子供を大事にする街、防災緑地を活かしたサイクリングロード、ウォーキングロードの整備、など。



第2回 「豊間のこれからを考える」（諏訪川南部を中心に） 9月16日（日）南集会所

◆住民の参加者 31名（男19、女12）

◆主な意見 《早く高台に移れるように》 《レトロな豊間の再生》
《外部の人が訪れる街に》

- ・安全なまちが大事、高台の早期整備、避難路の整備、堤防の整備、津波の記憶を残す場所の整備、防災無線、放射能対策を進めて欲しい。
- ・神社、祭り、行事、街並み・景観、鳴き砂など豊間の昔の良さを再生したい。
- ・地域全体で子育てをしていた街に再生する、隣組、集会所、こども園が必要。
- ・サーファーも多く、海の魅力（波、砂浜、海岸線、鳴き砂）を活かして外部の人も訪れる街にして、産業に繋げてはどうか。



第3回 「豊間の産業の再生と復興を考える」

10月6日（土） 豊間公民館

◆住民の参加者 14名

◆主な意見 《自力再建が困難》 《グループ化、業態の連携が必要》

- ・蒲鉾工場は、継続者が1軒のみ、被災前8軒あったが自力再建は困難。
- ・近隣店舗は、地域の残存世帯が少なくなり、仮設店舗での営業も困難。自力再建は困難で、建物が用意されればテナント営業を考えたい。
- ・民宿は、被災前7軒あったが1軒だけが残った。塩屋崎ホテルは営業再開。B&B型民宿+レストランという形の観光をテコに産業の再生を図りたい。防災緑地で海が眺望できなくなるのが問題。
- ・いずれも単独の再建は厳しく、グループ化、各業態の連携が必要。



ワークショップ 中間報告会 自由にご参加ください！！

みなさんが話した夢や希望や要望をもとに、専門家みなさんに提案をまとめてもらいました。

10月28日（日） 14:00～16:00 場所:豊間公民館

※ 報告者 ; 東京・豊間支援グループ専門家のみなさん



◆後半のワークショップのご案内

中間報告の提案を受けて、11月から再度6回のワークショップを開催しますので気軽にご参加ください

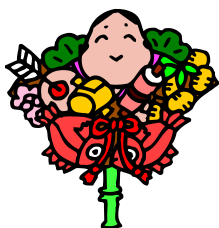
11月10日（土）、11日（日） 11月24日（土）、25日（日） 12月8日（土）、9日（日）

ワークショップ中間報告会

とき 10月28日(日)
14:00~17:00
会場 豊間公民館
主催 ふるさと豊間復興協議会

9月1日から10月7日まで6回にわたって実施してまいりました、「災害公営住宅の住まい方」や「産業の再生復興」をみんなで考え、話しあったワークショップの中間報告会を開催いたします。みなさまのご出席をお待ちいたします。

豊間公民館祭



期日 11月3日(土)
9:30~15:00
会場 豊間公民館

和太鼓演奏 安波さまの歌
百笑溢喜トークショー
豊間獅子舞 紙芝居
門馬妙子先生の民謡
バザー

ガレキに花を
咲かせましょう

パンジー3000株を用意。
シャベル・軍手を携行し
ご参加ください **雨天決行**

期 日 10月28日(日)
午前10時から
ところ セブンイレブン
豊間店の隣地
ごち会による“炊き出し”
があります。

